繁殖の良い農場の取り組み

～具体例を紹介～

2017年5月 M情報

茅野

先月は多くのみなさんに弊社の繁殖セミナーにご参加いただきありがとうございます。繁殖の良い農場の良い取り組みをもっと教えてほしいという意見も聞かれました。今回はセミナーでお話しできなかった“繁殖の良い農場”に行ったアンケートを通して、それら農場の具体的な取り組みをご紹介したいと思います。

【アンケートにご協力頂いた農家の具体的な数値】

項目	アンケート農家平均	THMS平均
21日妊娠率	25%	20%
授精率（発情発見率）	62% ★	50%
受胎率	41%	40%
初回授精開始日	70日 ★	80日

【自発的待機期間（VWP）と初回授精について】

アンケートを取ったどの農場もVWPを意識しており、“50日”という回答が一番多かったです。初回授精を開始する搾乳日数は“70日”前後という結果でした。実際に平均の初回授精開始日をみてみても70日となっており（上の表を参照）、THMS平均に比べ10日も早く初回授精が開始されていることがわかりました。

【発情発見に費やす時間】

多くの農家が発情発見のために毎日30分程度を費やしていることがわかりました。万歩計を導入しているところではパソコンで発情牛のチェックを日に複数回チェックしていました。また万歩計を導入されていない農家でも、フリーストール・つなぎ牛舎に関わらず発情発見のために見回りを行っていました。時間帯は搾乳後の牛がリラックスしている時という回答が多かったです。

【発情発見のポイント】

発情発見の際にどのような牛をピックアップしているのか？そのポイントをアンケートから抜粋します。マウンティングやスタンディングだけではなく、うるさい牛、ウロウロしている牛、挙動不審な牛、目がギラギラしている牛、鳴いている牛、皮むけ・チョーク消え、人の後についてくる牛など様々な「いつもと違う」ところに注目して発情を発見していました。また発情行動だけでなく、排血などの情報もお手製の繁殖ノートに記入して、次回の発情発見の参考になるような記録を取っている農家もいました。

【繁殖でうまくいっていると思うこと】

この質問では、繁殖のうまくいっている農家の効果的な手法を知ろうという意図があったのですが、みなさん現状にあまり満足はしていないようです。しかし、21日性周期を確認して再発予定

の牛を注意して追うという基本的なことや、獣医師・授精師との連携の重要性を挙げている農家もいました。

【モチベーションの維持】

繁殖は日々の継続が力となります。繁殖に対するモチベーションをどのように維持しているのか、そのヒントを探ろうと質問してみました。利益に直結しているという意識をもつと回答した農家がいました。また、獣医師や授精師など周囲の人とのコミュニケーションでモチベーションを維持しているという農家もいました。興味深かったのは「繁殖検診を答え合わせと感じている」と回答した農家です。これは同じような回答が複数ありました。検診から検診までの期間の中で、発情をどれだけ見つけることが出来たか、またそれらの牛は受胎できたのか等といった自分のやったことをしっかり顧みることがモチベーションにつながると考えてのことでした。

【繁殖はココが重要！】

各農場に尋ねた繁殖管理の重要ポイントを列挙します。

- あやしい牛はできるだけ授精師に見せる
- 初回授精までの管理／母体の健康（特に周産期の管理）
- 普段の様子を良く見ておくことで、「いつもと違う（発情）」と感じることが出来る
- 獣医師や授精師との連携

【まとめ】

繁殖の良い農場では発情を多く、そして正確に見つけています。また、移行期や初回授精までの管理の重要性を理解しており、そのうえで初回授精をしっかりと意識して行っていることがわかりました。発情を見つけるための時間を日々の作業の中に組み込むなど、積極的に授精率を上げる工夫をされている農家が多く見られました。今回ご紹介した実践例は、取り組みの中の一部分なのかもしれませんが、参考になるポイントが多くあったのではないでしょうか。ぜひこの機会に繁殖管理を見直し、いいところは積極的に取り入れて実践してみましょう。

繁殖管理のチェック項目	ポイント
初回授精	VWP を意識して早めの AI
発情発見に費やす時間	1 日 30 分程度は発情を 見つけるための時間を確保
観察	“普段と違う”牛の発見 発情記録をつけることも有効
うまくいっていること	再発情を周期で追うなど基本が大事
モチベーションの維持	繁殖検診は答え合わせ 授精師や獣医師との連携